

研究の背景及び目的

- ①類型論の観点からの言語の記述
- ②日本語教育のための実践研究

■ おもな研究内容

←

①親族関係をもたない言語（日本語やブルガリア語）の文法的カテゴリーの対照←

一見、接点をない言語が構造には共通の特徴をもっている。言語のそういった統一性は、相互に作用する認知的、経験的、社会的、または機能的な性格をもっている要因から生まれる。本研究では、系統的に離れている日本語とブルガリア語の比較・対照を行っており、機能的要因との関連において、いわゆる「概言モダリティ」の類型について探っている。←

←

②日本語教育のための実践研究←

近年、日本語教育のコンテンツの充実が課題とされており、特に、見直しが必要とされるのは文法教育である。本研究では、日本語学習者のニーズ調査を行った結果から明らかとなった文法教育の課題を洗い出し、学習者が自律学習等にも役立つオンラインで使用出来る日本語の記述文法の開発を行っている。←

期待される効果・応用分野

- ①比較的に対照研究が少ない言語（日本語とブルガリア語）の共通の特徴を解き明かし、他言語の類型論的研究への応用または両言語の語学教育に寄与する。
- ②多様性や新学習様式に対応した学習コンテンツや学習方法を整備する。

■ 共同研究・特許など

研究分野	言語学
キーワード	対照言語学、日本語教育

研究室URL：